

◎座談会に参加した“新成人”のメンバー 今後の目標を書いてもらいました。



かとう ひより 加藤 日和さん 燕市職員
きたじま ちかぜ 北島 千風さん 燕市職員
ほり ゆきの 堀 雪乃さん 大学生
やまぐち ほたか 山口 帆昂さん 大学生
おおくら ねね 大倉 寧々さん 大学生
いづか たいら 井塚 太以良さん 大学生

※この座談会は昨年11月20日に開催しました。

"燕ジョイ活動部"って？

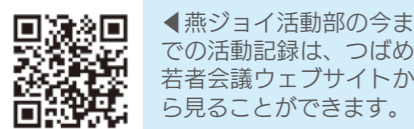
燕ジョイ活動部は、自由な発想で話し合い、メンバー自らが感じたことを楽しみながら、さまざまなアクションを企画し、実行していくプロジェクトです。メンバーは29歳まで。「自由でいいんです。」を合言葉に、みんなで活動しています！



▲頂上カップ麺チャレンジ。熱湯を入れた水筒を持って、国上山登山を敢行。無事山頂に到達し、みんなでおいしくカップ麺をいただきました。



▲大河津分水通水100周年を前に「大河津分水 Twitter 川柳コンテスト」をメンバーが企画。作品の選考会に向けて、自らも学ぼうと大河津資料館を見学し、その周辺を散策しました。



燕ジョイ活動部の今までの活動記録は、つばめ若者会議ウェブサイトから見ることができます。

●問合せ 地域振興課交流推進係
☎ 0256・77・8364



サイコロトーク① 20歳になる(なった)感想は？

井塚：20歳になったことで特別な何かを感じたわけではなく、というのが正直なところですが、大人になったと思うのは選挙です。選挙権は18歳からですが、私にとつて昨年初めての選挙でした。「大人の仲間入りをしたな」という気持ちがありました。

大倉：私が20歳になったと感じるのは、行政に興味を覚えるようになったこと。燕ジョイ活動部で行政について話を聞く機会があって、その後自分が納税したお金がど

んなふうに使われているのか、二コースでも関心を持つようになりました。

市長：燕ジョイ活動部はいいですね。皆さんもぜひ入ってください。

加藤：私は3月で成人を迎えます。仕事をしていると、その境目がよく分かりませんが、お酒が飲めるようになるなど、できることも増えてくると思います。一社会人として仕事とプライベートを両立させていきたいです。

北島：18歳で入庁したときが大きな転換点だと感じましたが、20歳になり大人としてできることは増えました。父親になったこともあり、さらに気を引き締めて責任ある行動を取りたいと思います。

山口：北島さんにお子さんがいると聞いて驚きました。それに比べて、自分は小学校から大学までずっと同じ意識で来ていますね。そこまで大人になりきれない感じがあります。変わったことと言えば、アルバイトをして自分でお金を稼ぐようになったことかな。

あとは車を運転するようになって、行動範囲が広がり、自由度も大きくなったと思います。自由が手に入る代わりに責任もついてくることを意識するようになりました。

堀：20歳になるまで早かったなと思います。正直、感染症の影響などを見てみると、いろいろなことに興味なくなってしまう、「少し疲れ

ちやっとな」と思うこともありました。

ですが、成人式の実行委員を頼まれ、自分でやると決めて引き受けたので、責任を持ってやりたいです。

山口：自分も実行委員を頼まれました。友人が声をかけてくれたので、精一杯頑張ろうと思います。

市長：実行委員はもう集まって何度か会議をしているの？

山口：まだです。

市長：これから3月の成人式に向けて準備を進めていくことになるけれど、感染症の影響がなければ、いろいろな企画を検討することができると思います。皆さんから楽しんでもらえるような企画を実行したいですね。

新春座談会2022 新成人×燕市長

今年の新春座談会は、「自らの目標」や「燕市の将来像」などのテーマをサイコロの出た数で選び、6人の新成人から語り合ってもらいました。

市長：あけましておめでとうございます。また、皆さんは今年成人式を迎えるということで、ダブルでおめでとうございます。

さて、学生として、社会人として、この1年半、感染症の影響はどうでしたか。

井塚：入学前から感染症の影響が出始めて、大学での講義はまだ1回もありません。オンライン講義ばかり。今、人との関わりに飢えています。

山口：確かに入学前までは大学生活ってキラキラしていた、友達とキャンパスで楽しく話しているのを想像していたのですが…。現状はオンライン講義だけで、本当に人との関わりがありませんね。

大倉：私も大学で講義を受けたことがありません。不要になった移動時間は、趣味の充実にあてています。

また、県内のこともいろいろ知りたいと思い、地域課題に取り組み「ダブルホーム」という大学のプログラム活動や、燕市役所の燕ジョイ活動部にも参加しています。今ではオンライン授業でよかったと感じることもあります。

堀：皆さんの言うとおり、人

との関わりが薄れていると感じますね。最近では対面の授業も徐々に開始されてきて、やっと大学生活が始まった気分です。感染症の影響で1年半つぶれたという言い方もできますが、まだあと2年半あると考え、自分から積極的に動いて人脈を作っていきたいです。

市長：みんな人との関わりに飢えているんだね。

北島：私は燕市役所の下水道課に勤務しています。昨年6月に長女が生まれましたが、感染症禍のため出産に立ち会えませんでした。妻も一人で心細かったと思います。本当に早く収束してほしいですね。

加藤：私も昨年4月に燕市役所に入庁し、農政課に勤務しています。マスクのせいで、職員の前を覚えるのに苦労しています(笑)。

市長：学生にしてみれば新入生歓迎コンパはないだろうし、市役所も歓迎会はなし。これまでは最初の顔合わせの場で、同級生や同期の職員とコミュニケーションが取れていたと思うけれど、感染症禍でそういう機会がないというのは大変だと思います。